

みえ現場 de 県議会

「森林づくりと森林を支える社会づくり～みえ森と緑の県民税導入を契機に～」

実施概要

- 1 日時・場所 平成26年11月13日(木) 14時00分～16時00分
尾鷲市民文化会館(せぎやまホール) ギャラリー兼小ホール
- 2 テーマ 「森林づくりと森林を支える社会づくり～みえ森と緑の県民税導入を契機に～」

<テーマの選定理由>

森林は水や命を育み、土砂災害や地球温暖化を防ぐなど、大切な働きを持っていますが、近年は荒れた森林が増加しており、集中豪雨の発生が増加していることもあわせると、三重県でも山崩れなどの災害が発生する危険性が高まっています。

このような中、三重県では、平成26年4月1日から「みえ森と緑の県民税」を導入し、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」の推進に、市町とともに取り組んでいくこととなりました。

そこで、県議会では、新税の導入を契機に、森林が置かれている現状や森林づくりを進めるうえでの課題を踏まえ、三重の森林を守り、未来へつなげるための森林づくりはどうあるべきか、関係者や県民の方々から直接意見を聴くことで、議会での議論に反映していきます。

3 参加者

<県民> 11人(森林づくり・森林を支える社会づくりに関わる方8人(林業関係者、NPO団体、企業関係者、森林環境教育指導者など)、一般公募による県民の方3人)

<県議会> 13人 ○印は広聴広報会議委員

永田正巳議長、○奥野英介副議長(広聴広報会議座長)、○小島智子議員

○彦坂公之議員、○栗野仁博議員、○石田成生議員、○大久保孝栄議員

○中西勇議員、○中村欣一郎議員、○今井智広議員、○後藤健一議員

小野欽市議員(環境生活農林水産常任委員長)

村林聡議員(防災県土整備企業常任委員長)

<傍聴議員> 3人

<傍聴者> 7人

4 プログラム

- (1) 開会 挨拶(永田正巳議長)
- (2) 趣旨説明
- (3) 自己紹介
- (4) 意見交換
- (5) 閉会 挨拶(奥野英介副議長)

5 主な意見

(1) 森林づくりについて

森林の適正な管理の観点から

- 材価の低迷が続き、森林への関心が薄れ管理ができなくなっている。山の所有者も高齢化が進み、山林の境界がわからなくなっている。森林組合としても山の境界がわからないと施業ができない。三重県は地籍調査が大変遅れているのでぜひ取り組んでもらいたい。**【関連：総務地域連携常任委員会】**
- 材価が下がって単価も10年前の5分の1ぐらいになっている。過疎化により林業が衰退している中で、いかに林業で生きていくか、木を切って植林をするといったことで地域も活性化し、自然災害や環境の問題にもつながり、雇用も生まれると思う。
- この地区の問題点として、個人所有の山が多く、相続して面倒が見られなくなり、土地ごと全部売却したいという話が多い。伐採して植付しようにも、森林組合も人手不足であり、県からの補助金も少ない。
- 1次産業である林業、2次産業である木材加工、さらにそれを販売していく6次産業化を目指してやっていきたい。そこまでやっていかないと、山に植え付けする人が誰もいない。この地区では一次産業である林業は成り立っていない。
- 森や山は私達の中で大きな存在でいろんな働きを担ってくれていて、森、山そのものが強くないと多面的機能が発揮できないのではないかと思う。その時に有効なやり方と思っているのが、森の水脈や気脈を考えた森整備が大事であるということ。こういうことがだんだん分かってきたので、県としてどんどん取り組んで、森林の先進県になっていってほしいと思う。
- 土砂崩れがなぜ起きるのかを考えたとき、大地がコンクリート施工され呼吸ができなくなって、水が山の上まで蓄積され、木の根が不全を起し、山の地力をなくしてしまっているからではないかとすごく感じている。新税を通じて保水力のある山を作るため、水の流れ＝空気の流れなので、空気が流れないということが一番大きな原因だという観点から土木工事が行われるよう、そういう取り組みが始まるとういなど願っている。**【関連：防災県土整備企業常任委員会】**
- 造林し販売しても赤字なので森の手入れをしていないという方が大部分だと思う。森林が整備されないために雨が降ると土砂や立木が海に流れ、撤去に相当費用がかかる。そういった点からも森林の手入れに新税を使ってやっていただきたい。
- 山には間伐が必要であり、間伐をして日が入るようにすると木の皮の色が全然違う。人間と同じで、すくすく育ったところはりっぱな木になり、そこには風、下草、水そして土ができる。
- 尾鷲地域にはかつては1ヘクタール4200万円という山もあったが、今は1ヘクタールでよくて300万円程度。そんな状態なので誰も山へ目を向けない。誰も林業をやらない。これが我々毎日やっている現場の声である。
- 今も大事だが、子どもや孫の30年、50年、100年といったスパンの時に、林業がどうなっているのかということ、先を見ながら行政が政策を取ってくればまた先に繋がるのではないかと思う。

県産材の利用の促進の観点から

- 木の家を建てたい人は多いが、木の家は高いのではないかと、また誰に頼んだらいいかわからないという声があり、実際、木の家を建てる人は少ない。
- 家の作り手側としては、施主に対して三重の木も使えるとか、三重の木を使ってもそんなに高くはないといった説明をしながらやっていけばいいかと思っている。
- 木の家を高いと思っているお客さんが多いが、実はそんなことはないという情報を安心して入手できるような場所を作っていただけるといいのではないかと思う。
- 魅力的な木の家を印刷物やテレビで紹介するとか、木の家を建てたいというのを強く思ってもらえるファンを増やすといいのではないかと思う。
- 木造住宅を建てたい人向けに、実は身近に専門家がたくさんいることを公共的な手段でPRしてもらえないかと思っている。他県には、県の施設の一角で、住宅の無料相談会や木に関するパンフレットの展示、身近にいる専門業者や工務店、設計事務所の紹介などを行っているところがある。
- 三重の木を使って建てた家には住宅ローンの金利を少し安くする制度があるが、実際に利用いただいている方はわずかである。事前に三重の木を使えばローンが安くなるというPRが不足しているのではないかと思う。
- 木を切って出してもらわないと国産材の自給率は上がらない。また、設計士の方ともタイアップして、いい住宅をいかに安いコストで満足していただけるかということもこれからも考えていきたいと思う。
- 木の流通というものが消費者の目から見たらあまりにも遠くて、その木はどこで取れたこんな木という感じで買えるようにならないものかと、ずっと前から思っている。木を使うことが最も山をきれいにする近道なので、流通のコストを下げるとか、家を建てようとする人たちに情報がずっと入るようになればいいと思う。
- 税金を集中させて、県産材を利用すれば300万円は補助金を出すといったことをしないと。税金の集中利用を切に願う。
- 県産材の利用について、特に尾鷲では小学校は全部木造で、今後は保育園でも地元産のヒノキを使っていただけるということで大変感謝している。こういう事業にはどんどん森林税を使っていただきたい。
- 森林で一番大切なのは木を使うことだと学んだ経験から、社員に向けてそういう情報を発信していきたいと考えている。
- 今回松阪市で本格操業した木質バイオマス発電について、ずっと稼働し続けるにはかなりの材が必要となるが、本当に大丈夫なのかと思う。今の材は2年以上にわたって蓄積したが、それがどんどん減っていくということで非常に心配している。また、何十年もかかって作った木が一瞬のうちに煙となり、その材料をトラックで運んで粉砕してCO2を排出することとなるが、その地区にあるものはそこで消費するとか、もっと違うことができないのかと思う。

(2) 森林を支える社会づくりについて

森林環境教育の振興の観点から

- 人間も森の一部で、森によって生かされている、守られているということ子どもから大人まで理解するという観点からのPRをしてもらう、教育をしていただくことがより迅速な理解につながるのではないかと思う。

- 子どもたちと植樹をするときに、ただ植木を植えるというのと、それが森になるんだと思って植えるのでは、気持ちから全然違う。植樹を主催する側は、それを通じて何を伝えたいのか、何を感じてほしいのかという核があった方が、より充実したことができると思う。森づくりをするときには、ただ植えるのではなく、例えば命の循環を伝えたいとか、何かテーマを持ってやった方が教育になっていくと感じる。
- 森林環境教育をやっているが、校長先生にお会いしても理解していない方が多く、教育現場まで浸透はしていないと思う。学校と地域、三重県と森林の指導者が一体となって教育環境プログラムを作ったり、意見交換しながらやっていただければいいと思う。 **【関連：教育警察常任委員会】**
- 学校によって理解度が全然違う。ただ、学校の先生方はとてもハードで、さらにこの森林環境教育をするのは大変なのはよくわかるので、そのあたりの配慮が必要かなと思う。 **【関連：教育警察常任委員会】**
- 学校の先生方にはぜひ森林体験をしている現場に来ていただきたい。現場を見ていただければ一番分かると思うので。 **【関連：教育警察常任委員会】**
- 三重県で進めている森林環境教育は小学生からだが、小学生だけじゃなく幼稚園あたりから始めていただきたい。
- 森のせんせいのリーダー養成講座の継続及び充実をしていただきたい。
- 今年森のせんせいになられた方は、地道にあわてずでいいので、ステップアップをじっくりしていただきたい。ボランティアの方には技術的な面やいろいろな知識をたくさん身につけていただくと、より広い視野で活動していただけたと思う。
- 県内のボランティアの横のつながりがあまりないようなので、交流会をもってお互い協力しながらやっていければ、よりよい環境教育ができるのではないかな。こういうことは地道にやってつながることなので、そういった活動が大切だと思う。
- 税金は今1,000円だが、あと100円取ってもらっていいので、ボランティアとか、子どもの教育にしっかりお金を使ってほしい。

県民、NPO、企業等の森林づくりの活動の促進の観点から

- 県民のみなさんに継続して参加していただくために、一度事故を起こしたら終わりですので、森林ボランティアの技術や安全研修会をやっていただきたい。
- 企業等の森林整備活動を支えるためにボランティア養成講座を行っているが、北勢地区にもみんなが勉強できる場所、森に関わる場所ができるということで、行政が動かなかつたら自分たちで動くところまできている。
- 自社で取り組んだ企業の森活動は、一度植樹はするものの2回目に社員が参加することはなく、植えた木がどうなっているのかも知らなかった。今年からは社員参加型にして、ボランティアを募り、追加植樹を行った。こういった活動を地道に続けていきたいと思う。
- 木材が何とかして山から出る仕組みが必要である。また、みんなが森に入れる仕組みをどうやって作っていけるか、その一つの取り組みとして「木の駅プロジェクト」はいいのではないかなと思って、取り組みを始めている。
- みどりの少年隊というのがあるが、48ある団体のうち今40が休眠中である。みどりの少年隊にしっかりお金を補助してほしい。

(3) その他について

- 北勢地区においては、森林関係の担当部門がはっきりわからない。森林整備活動を進めるうえで、行政側の担当部門をもう少しわかりやすくして、税金の担当部署・担当者もわかりやすくなれば、もう少し前に行きやすくなるのではないかと思う。
- 国の補助が少ない中、植付や鹿の害にお金がかかるので、林業を生業としてやるものはないと思う。しかし、先代の作った山を何とか継ぎたいという思いでやっている。尾鷲へ来られる県職員の方もよくわかっていただいているが、意思疎通できる頃に異動してしまう。もう少し長く、あるいは引き継ぎをしっかりとさせていただくとか、議会の方から言っていただければと思う。

6 会場アンケートで寄せられた意見、感想など

- 林業が抱える問題をしっかり知ることができた。
- 様々な立場の方の貴重なご意見が聞け、大変参考になりました。
- いろいろなご意見が参考になりました。今後も継続していただきたく思います。
- 森林に関するあらゆる方面の現場の方々とお話しができ、議員の方々からも拝聴でき、それを反映させてくださるということがわかり、とても嬉しく思いました。このような貴重な場に参加させていただき感謝しています。
- この意見が継続して伝わっていくとよいと思います。
- 森林環境の現場に県議会の議員さんも一緒に参加いただき、もっと森林づくりをより広めていただきたくお願いします。
- その話がどう反映されていくか、後日継続のしくみがあるとありがたいです。
- 短時間に内容濃くでき、素晴らしいと思います。現場の意見は何よりも大事だと思いますので、これからもぜひ開催してより良い県政にしてください。よろしく願いいたします。